

「環境問題に関する世論調査」の概要

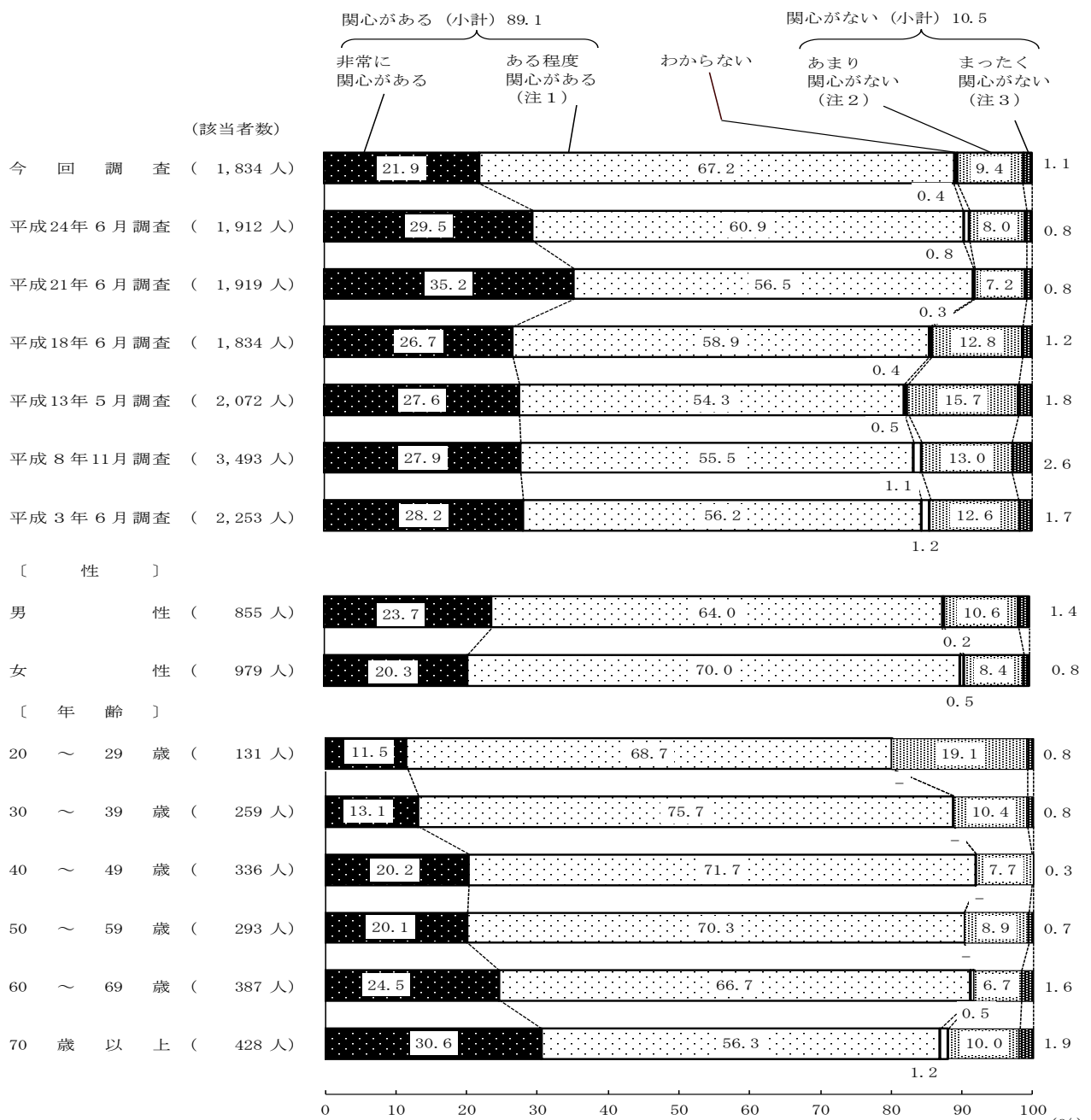
平成26年9月
内閣府政府広報室

調査対象	全国20歳以上の者 3,000人 有効回収数 1,834人（回収率61.1%） 調査期間 平成26年7月24日～8月3日（調査員による個別面接聴取）
調査目的	環境問題に関する国民の意識を調査し、今後の施策の参考とする。
調査項目	1 自然に対する関心 2 エコツアーリズム 3 生物多様性 4 絶滅危惧種
調査実績	「環境問題に関する世論調査」 平成24年6月（標本数 全国20歳以上3,000人 有効回収数 1,912人） 平成21年6月（標本数 全国20歳以上3,000人 有効回収数 1,919人） 「自然の保護と利用に関する世論調査」 平成18年6月（標本数 全国20歳以上3,000人 有効回収数 1,834人） 平成13年5月（標本数 全国20歳以上3,000人 有効回収数 2,072人） 平成8年11月（標本数 全国20歳以上5,000人 有効回収数 3,493人） 平成3年6月（標本数 全国20歳以上3,000人 有効回収数 2,253人）

1 自然に対する関心

(1) 自然に対する関心

	平成 24 年 6 月	→	平成 26 年 7 月
・ 関心がある (小計)	90.4%		89.1%
・ 非常に関心がある	29.5%		21.9% (減)
・ ある程度関心がある	60.9%		67.2% (増)
・ 関心がない (小計)	8.8%		10.5%
・ あまり関心がない	8.0%		9.4%
・ まったく関心がない	0.8%		1.1%



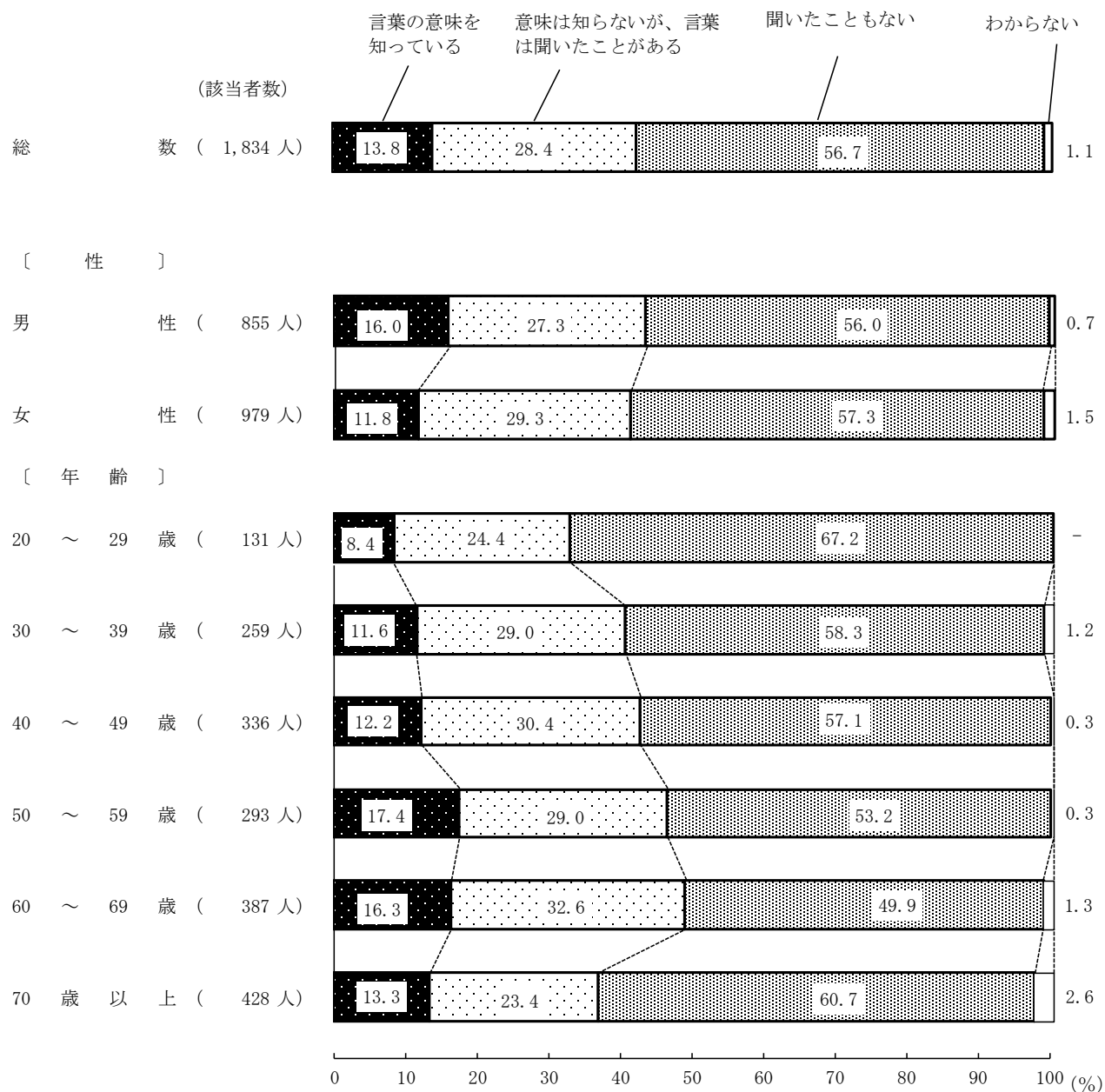
(注1) 平成18年6月調査までは、「どちらかといえば関心がある」となっている。
(注2) 平成8年11月調査までは、「どちらかといえば関心がない」となっている。
(注3) 平成18年6月調査までは、「全然(全く)関心がない」となっている。

2 エコツアーリズム

(1) エコツアーリズムの言葉の認識度

平成 26 年 7 月

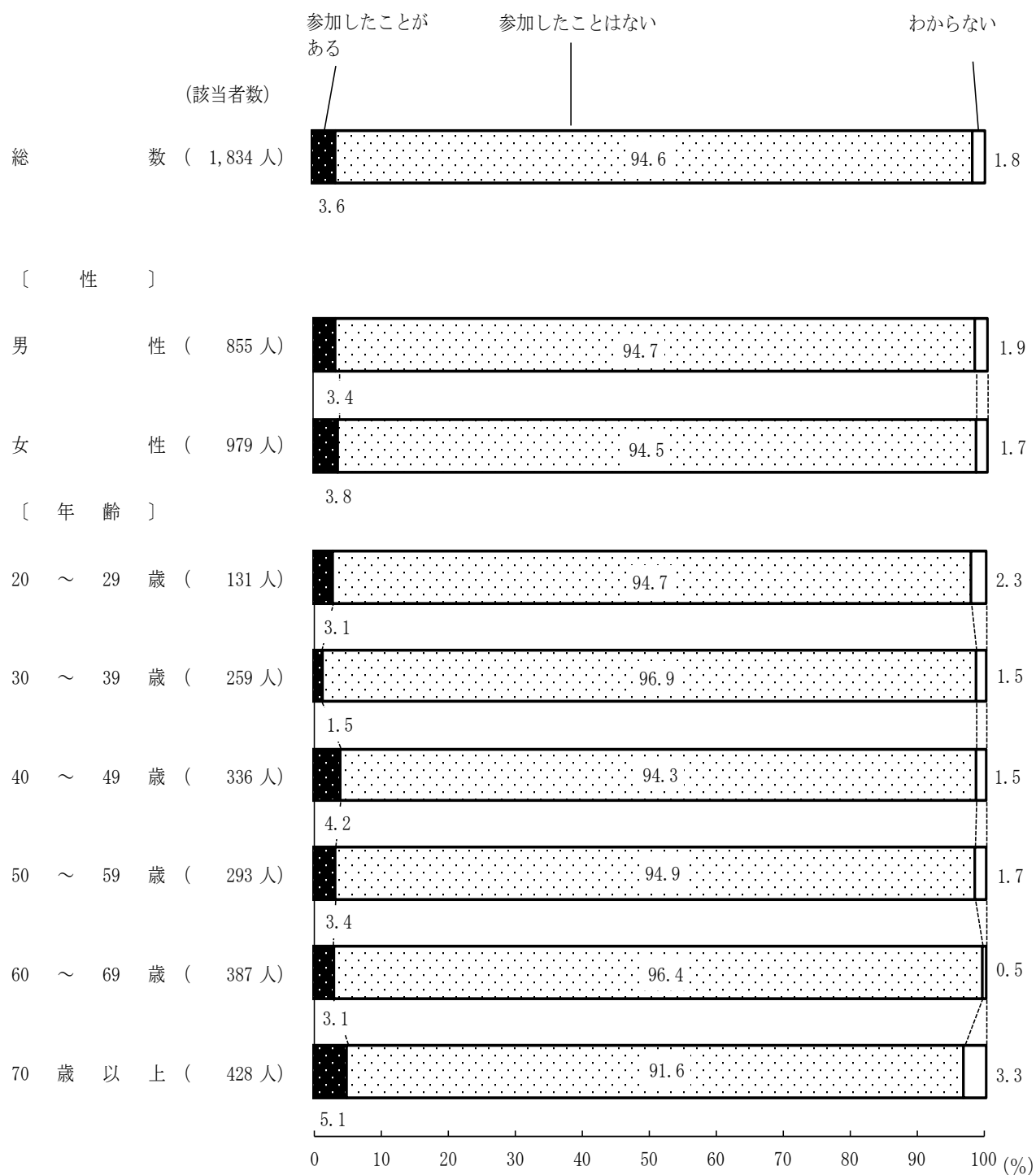
- ・言葉の意味を知っている 13.8%
- ・意味は知らないが、言葉は聞いたことがある 28.4%
- ・聞いたこともない 56.7%



(2) エコツアーへの参加状況

平成 26 年 7 月

- ・参加したことがある 3.6%
- ・参加したことはない 94.6%

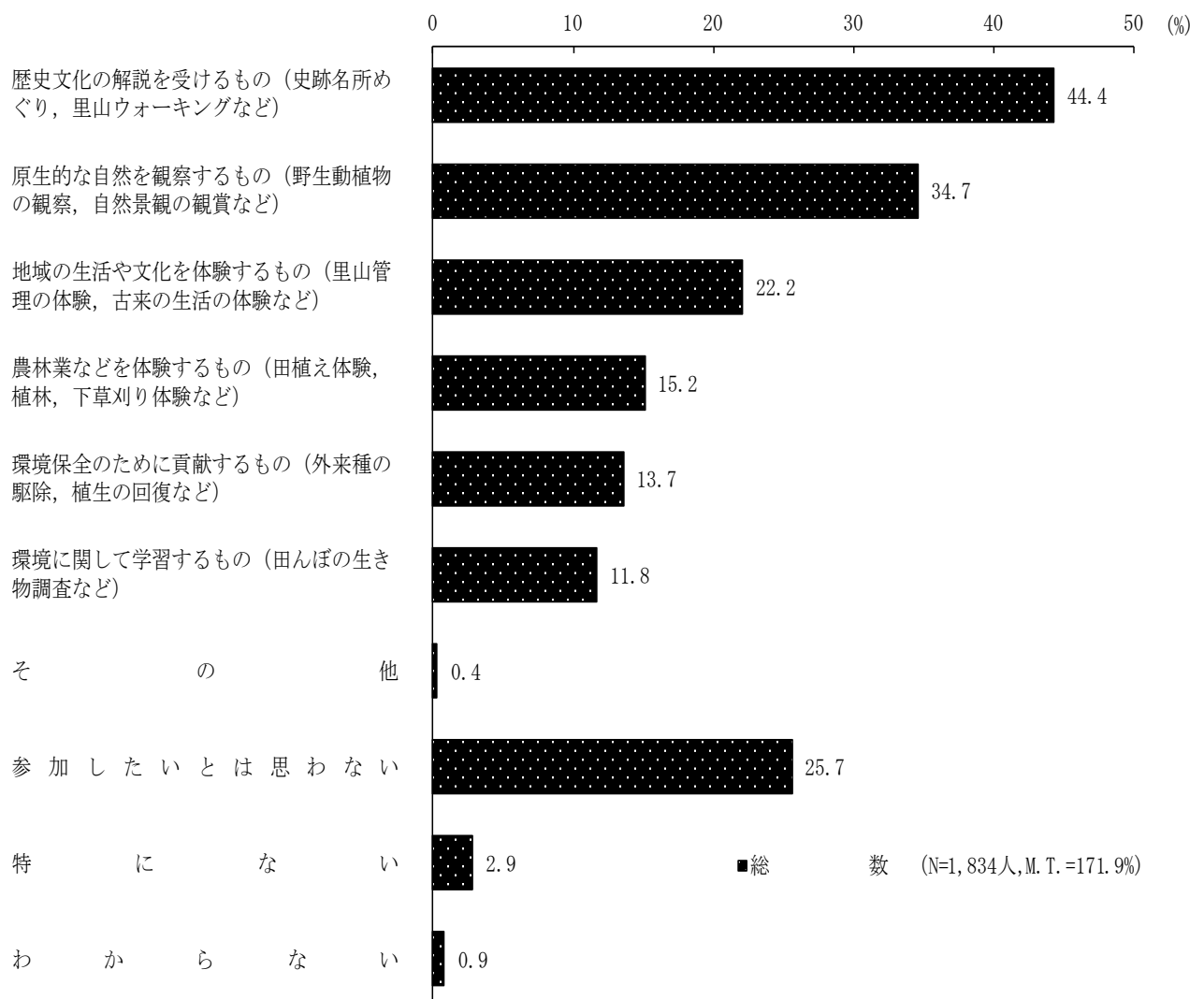


(3) 参加したいエコツアーの種類

(複数回答、上位3項目)

平成26年7月

- ・ 歴史文化の解説を受けるもの（史跡名所めぐり、里山ウォーキングなど） 44.4%
- ・ 原始的な自然を観察するもの（野生動植物の観察、自然景観の鑑賞など） 34.7%
- ・ 地域の生活や文化を体験するもの（里山管理の体験、古来の生活の体験など） 22.2%
- ・ 参加したいとは思わない 25.7%



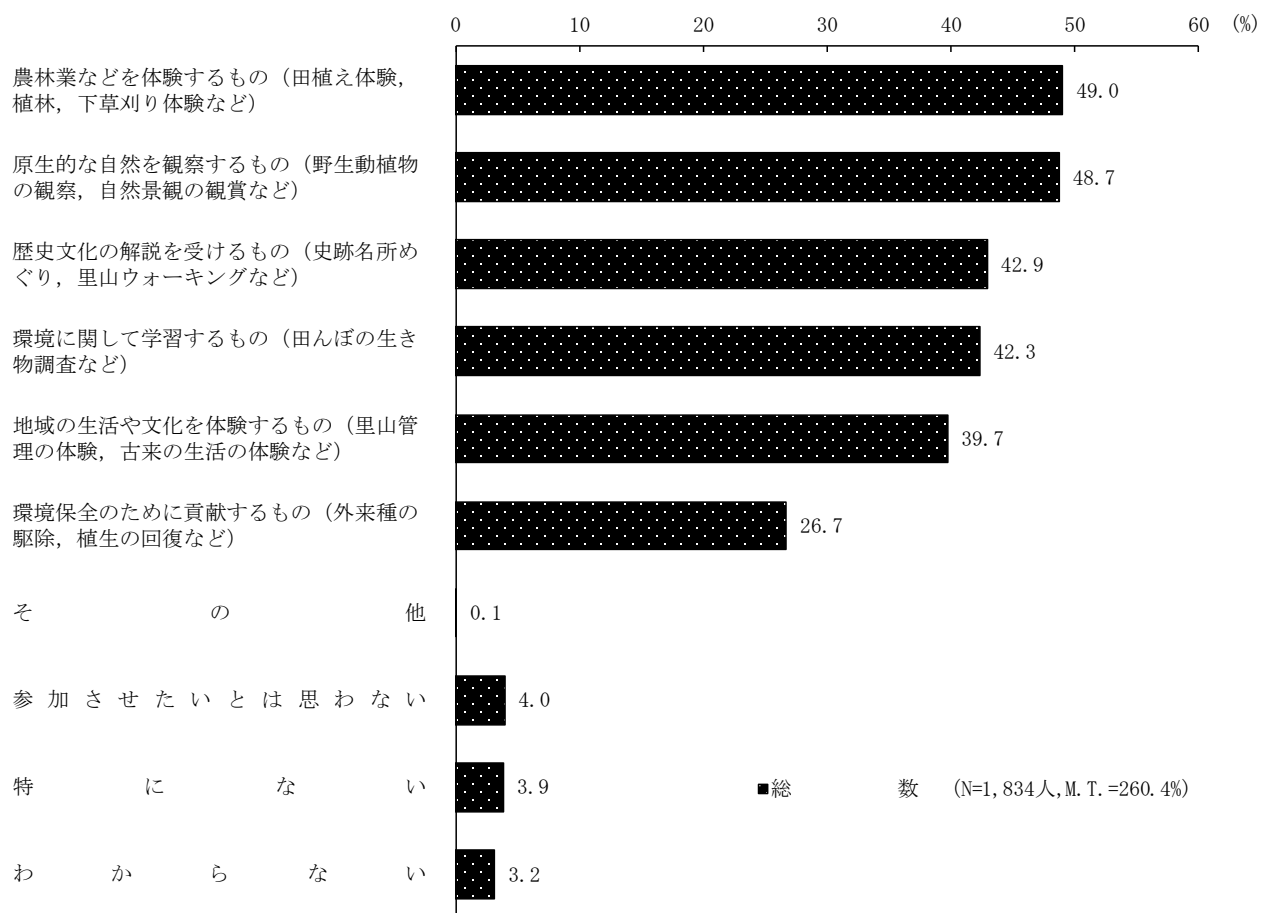
(4) 子どもに参加させたいエコツアーの種類

(複数回答, 上位5項目)

平成26年7月

- ・ 農林業などを体験するもの (田植え体験, 植林, 下草刈り体験など) 49.0%
- ・ 原始的な自然を観察するもの (野生動植物の観察, 自然景観の鑑賞など) 48.7%
- ・ 歴史文化の解説を受けるもの (史跡名所めぐり, 里山ウォーキングなど) 42.9%
- ・ 環境に関して学習するもの (田んぼの生き物調査など) 42.3%
- ・ 地域の生活や文化を体験するもの (里山管理の体験, 古来の生活の体験など) 39.7%

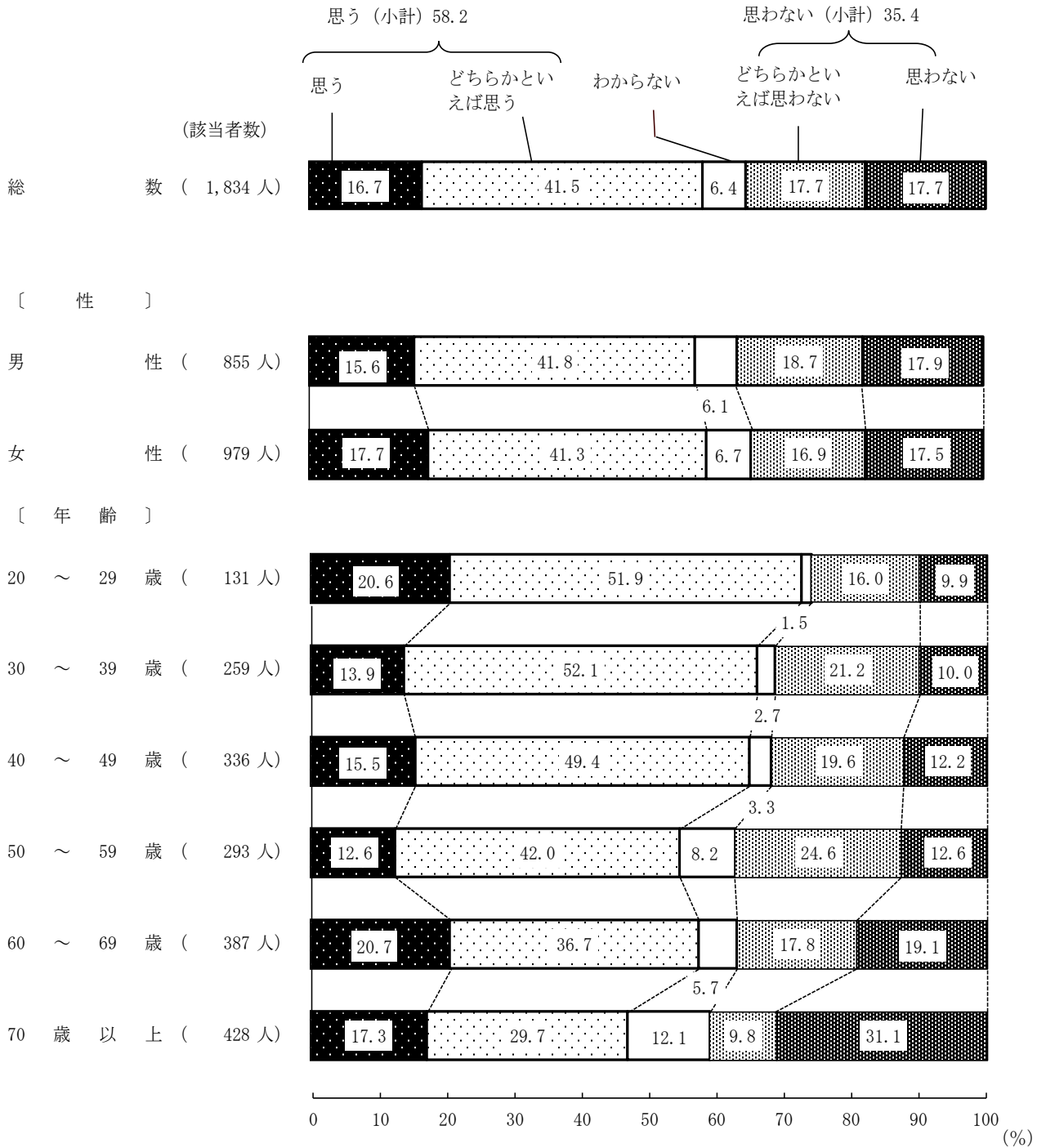
(複数回答)



(5) エコツーリズムによる地域づくり

平成 26 年 7 月

- ・ 思う (小計) 58.2%
 - ・ 思う 16.7%
 - ・ どちらかといえば思う 41.5%
- ・ 思わない (小計) 35.4%
 - ・ どちらかといえば思わない 17.7%
 - ・ 思わない 17.7%



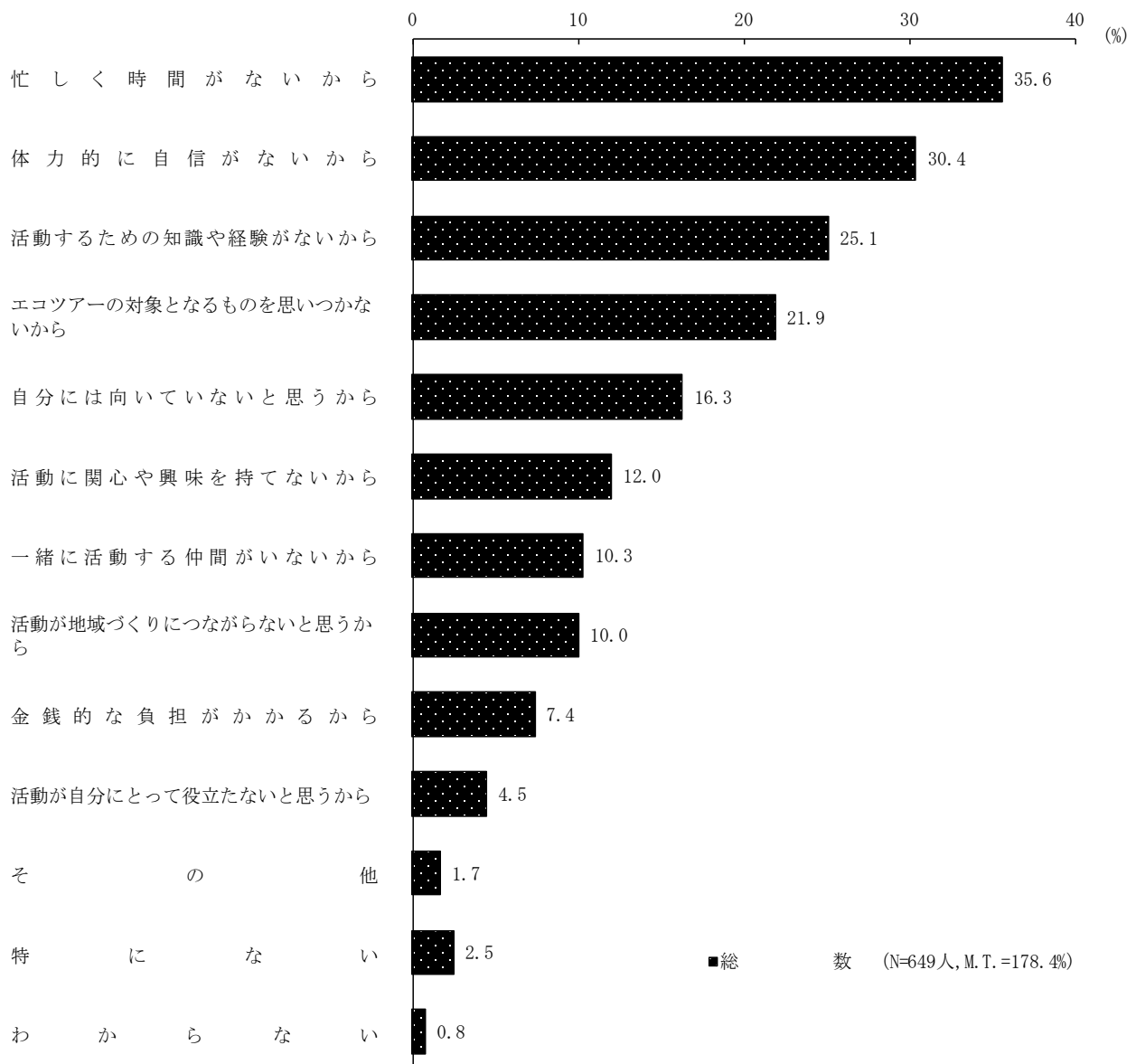
(エコツアーリズムによる地域づくりに対する意識について、「どちらかといえば思わない」、「思わない」と答えた者(649人)に)

ア エコツアーリズムによる地域づくりを行いたいと思わない理由 (複数回答, 上位4項目)

平成26年7月

- ・ 忙しく時間がないから 35.6%
- ・ 体力的に自信がないから 30.4%
- ・ 活動するための知識や経験がないから 25.1%
- ・ エコツアーの対象となるものを思いつかないから 21.9%

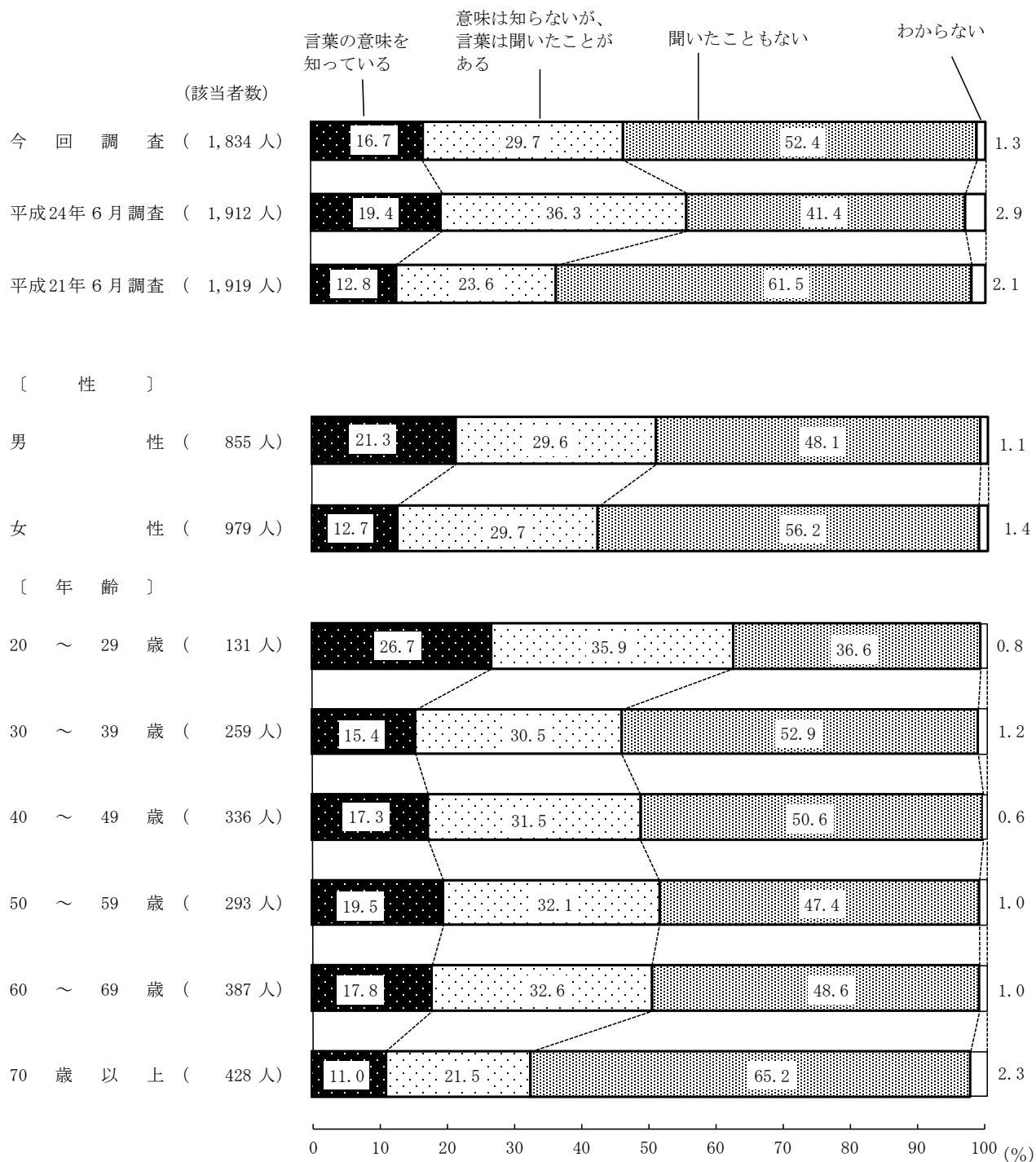
〔エコツアーリズムによる地域づくりに対する意識について「どちらかといえば思わない」、「思わない」と答えた者に、複数回答〕



3 生物多様性

(1) 生物多様性の言葉の認識度

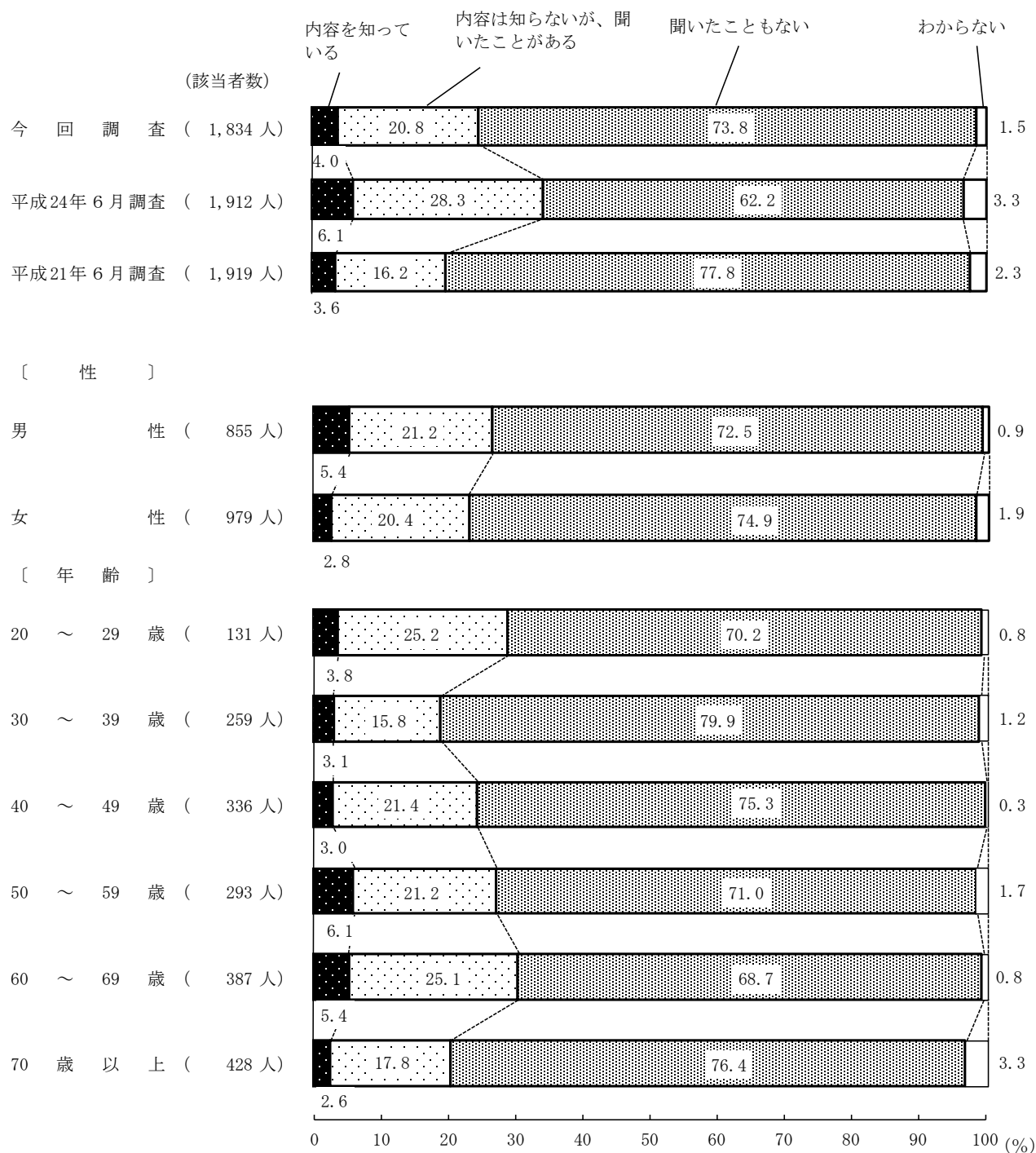
	平成 24 年 6 月	→	平成 26 年 7 月
・言葉の意味を知っている	19.4%		16.7% (減)
・意味は知らないが、言葉は聞いたことがある	36.3%		29.7% (減)
・聞いたこともない	41.4%		52.4% (増)



(2) 生物多様性国家戦略の認識度

- ・ 内容を知っている
- ・ 内容は知らないが、聞いたことがある
- ・ 聞いたこともない

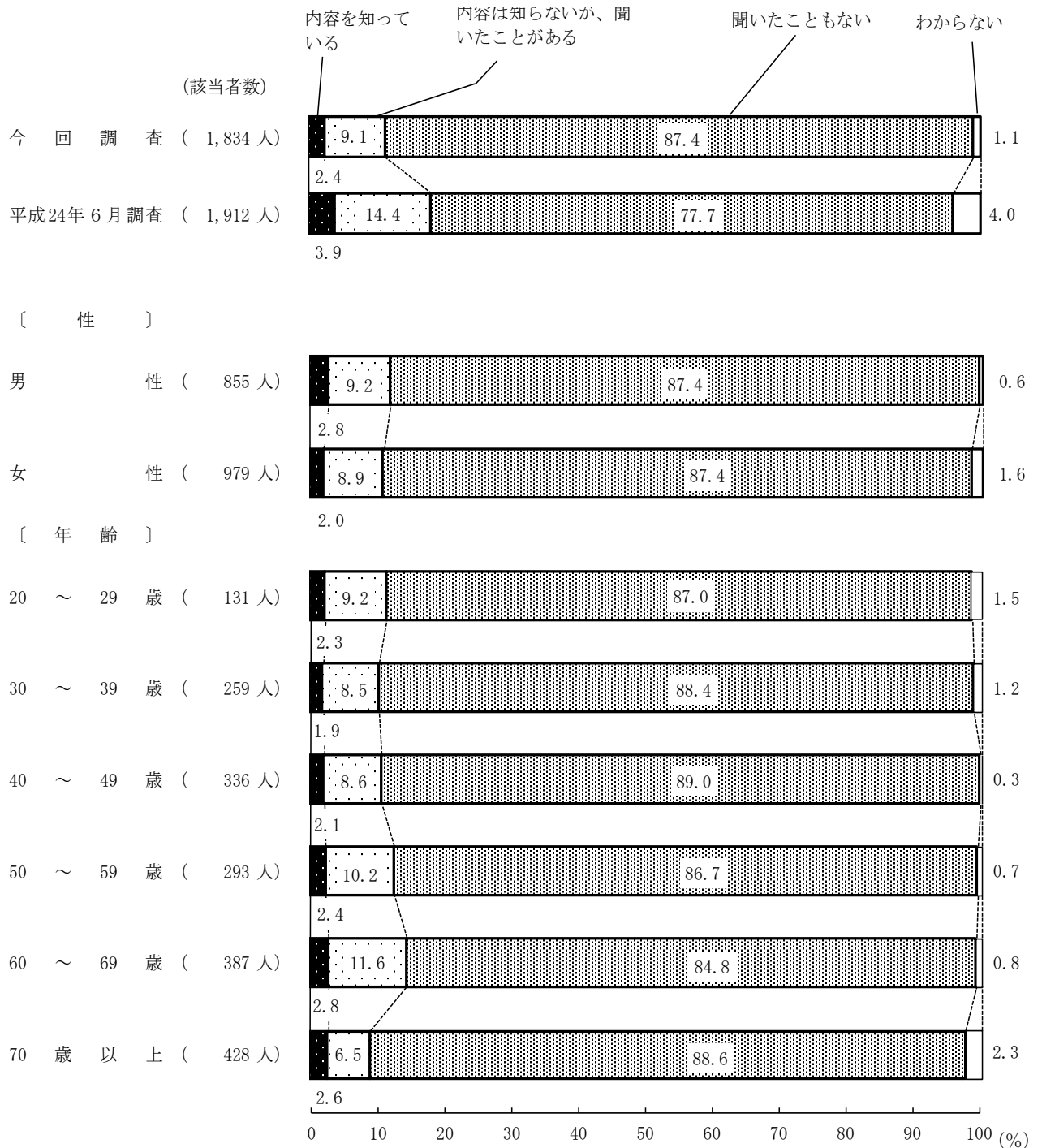
平成 24 年 6 月 平成 26 年 7 月
 6.1% → 4.0% (減)
 28.3% → 20.8% (減)
 62.2% → 73.8% (増)



(3) 愛知目標の認識度

- ・内容を知っている
- ・内容は知らないが、聞いたことがある
- ・聞いたこともない

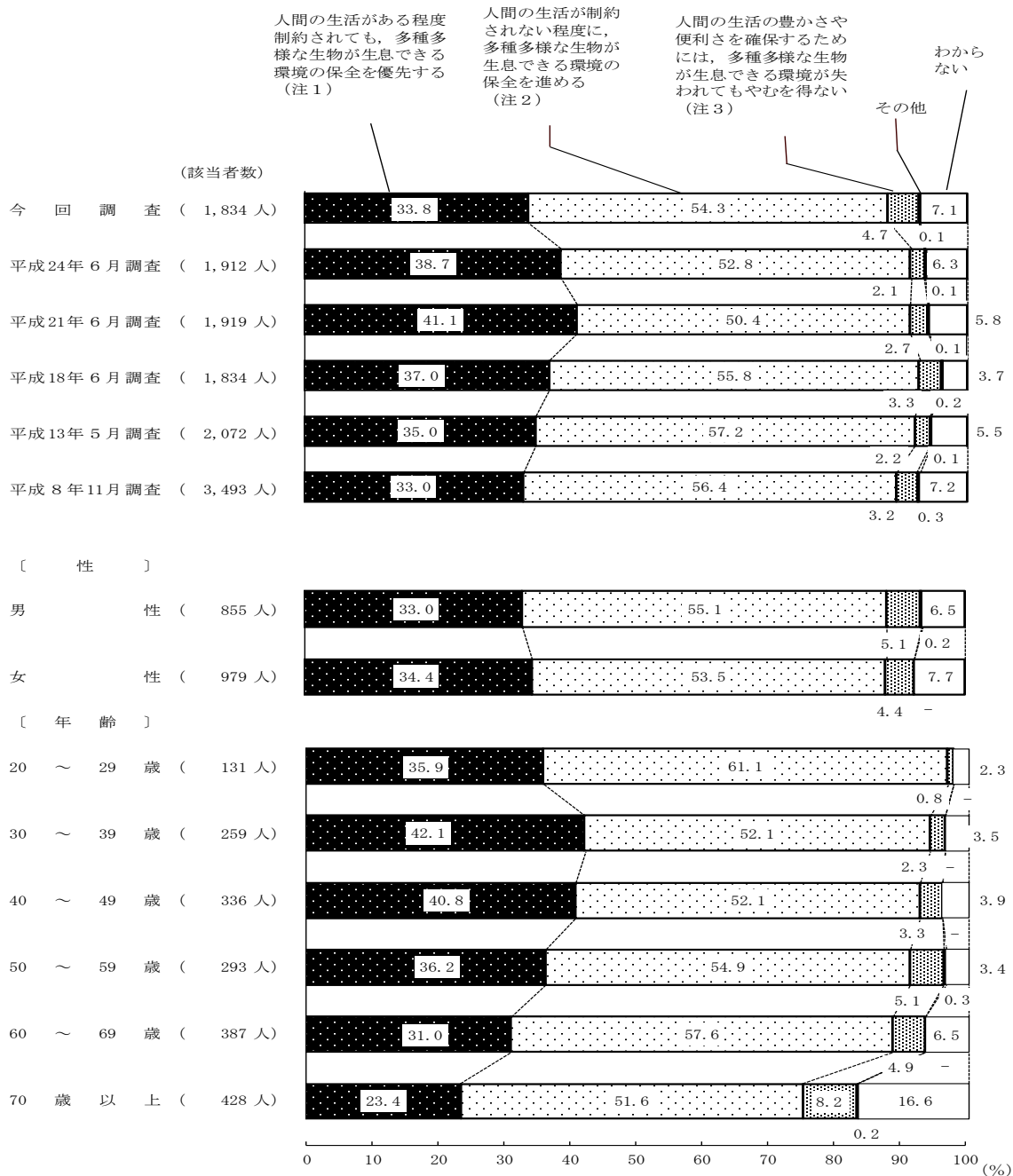
平成 24 年 6 月 平成 26 年 7 月
 3.9% → 2.4% (減)
 14.4% → 9.1% (減)
 77.7% → 87.4% (増)



(4) 生物多様性の保全のための取組に対する意識

平成 24 年 6 月 平成 26 年 7 月

- ・ 人間の生活がある程度制約されても、多種多様な生物が生息できる環境の保全を優先する 38.7% → 33.8% (減)
- ・ 人間の生活が制約されない程度に、多種多様な生物が生息できる環境の保全を進める 52.8% → 54.3%
- ・ 人間の生活の豊かさや便利さを確保するためには、多種多様な生物が生息できる環境が失われてもやむを得ない 2.1% → 4.7% (増)



(注1) 平成8年11月調査では、「人間の生活がある程度制約されても、多種多様な生物が生息できる環境の保全を優先すべきである」となっている。
 (注2) 平成8年11月調査では、「人間の生活が制約されない程度に、多種多様な生物が生息できる環境の保全を進めるべきである」となっている。
 (注3) 平成13年5月調査までは、「生活の豊かさや便利さを確保するためには、多種多様な生物が生息できる環境が失われてもやむを得ない」となっている。

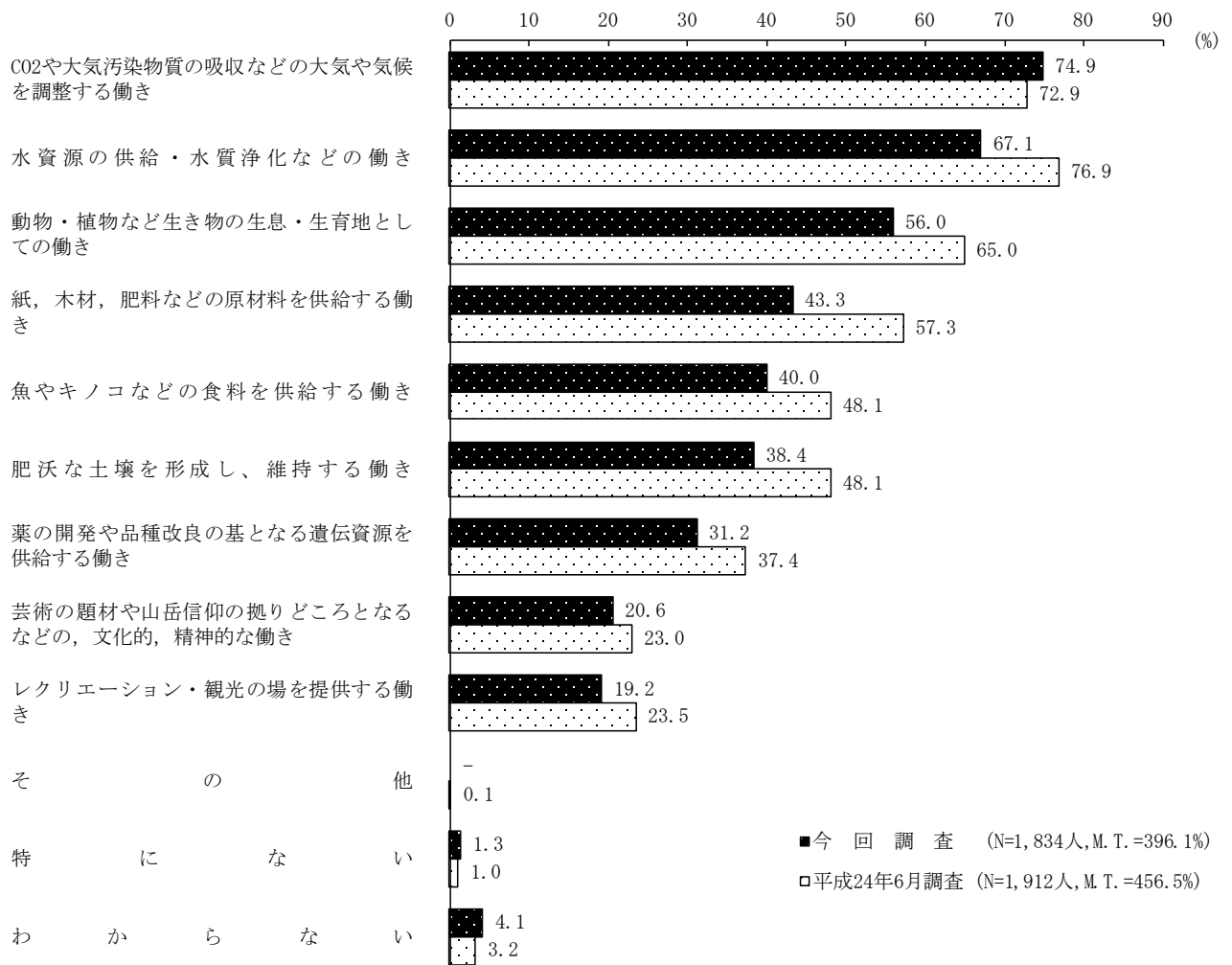
(5) 生態系サービスの価値に対する意識

(複数回答, 上位6項目)

平成24年6月 平成26年7月

・CO2や大気汚染物質の吸収などの大気や気候を調整する働き	72.9%	→	74.9%
・水資源の供給・水質の浄化などの働き	76.9%	→	67.1% (減)
・動物・植物など生き物の生息・生育地としての働き	65.0%	→	56.0% (減)
・紙, 木材, 肥料などの原材料を供給する働き	57.3%	→	43.3% (減)
・魚やキノコなどの食料を供給する働き	48.1%	→	40.0% (減)
・肥沃な土壌を形成し, 維持する働き	48.1%	→	38.4% (減)

(複数回答)

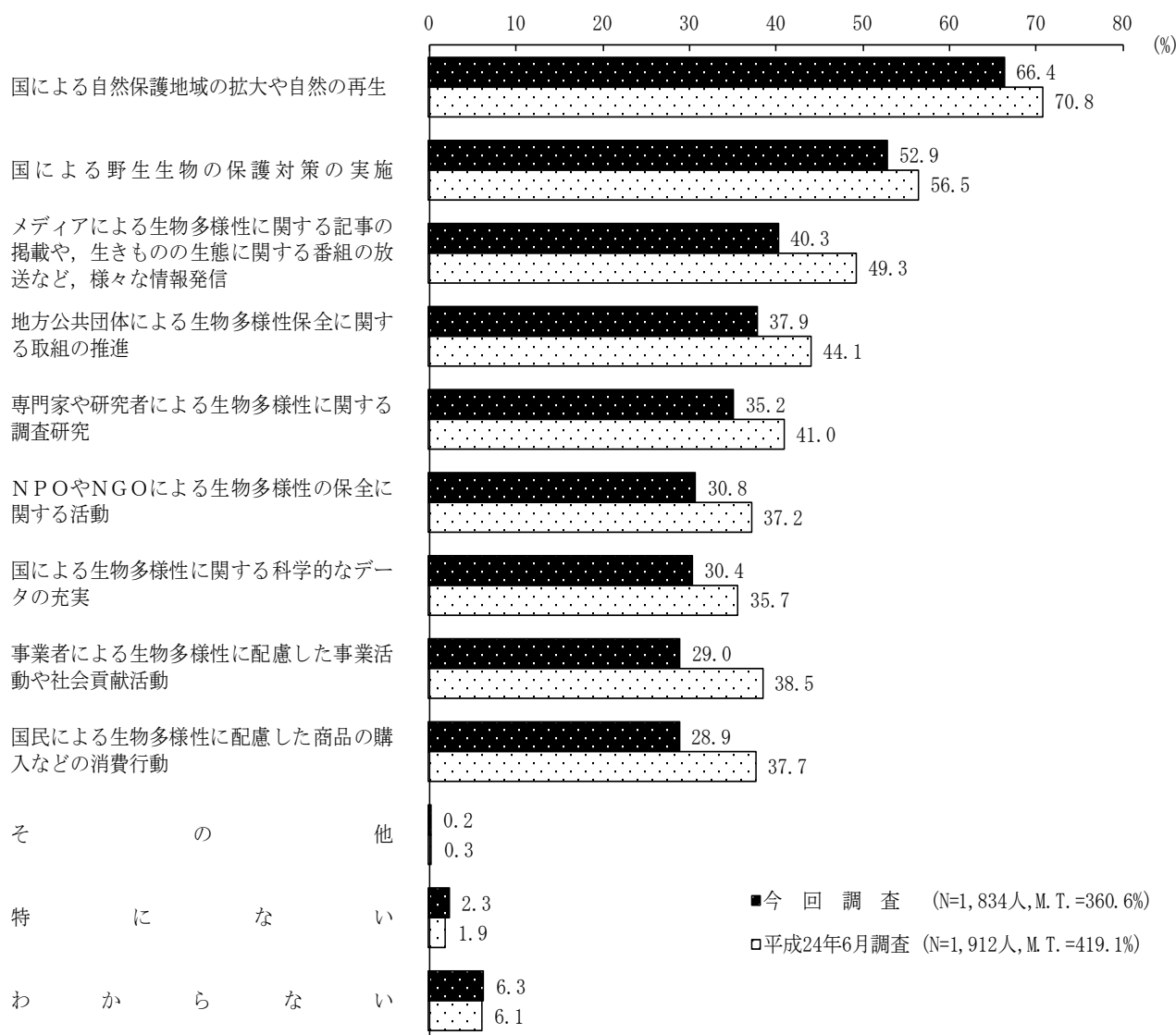


(6) 生物多様性の保全と多様なセクターの取組との関わり

(複数回答, 上位5項目)

	平成24年6月	平成26年7月
・国による自然保護地域の拡大や自然の再生	70.8%	66.4% (減)
・国による野生生物の保護対策の実施	56.5%	52.9% (減)
・メディアによる生物多様性に関する記事の掲載や, 生きものの生態に関する番組の放送など, 様々な情報発信	49.3%	40.3% (減)
・地方公共団体による生物多様性に関する取組の推進	44.1%	37.9% (減)
・専門家や研究者による生物多様性に関する調査研究	41.0%	35.2% (減)

(複数回答)



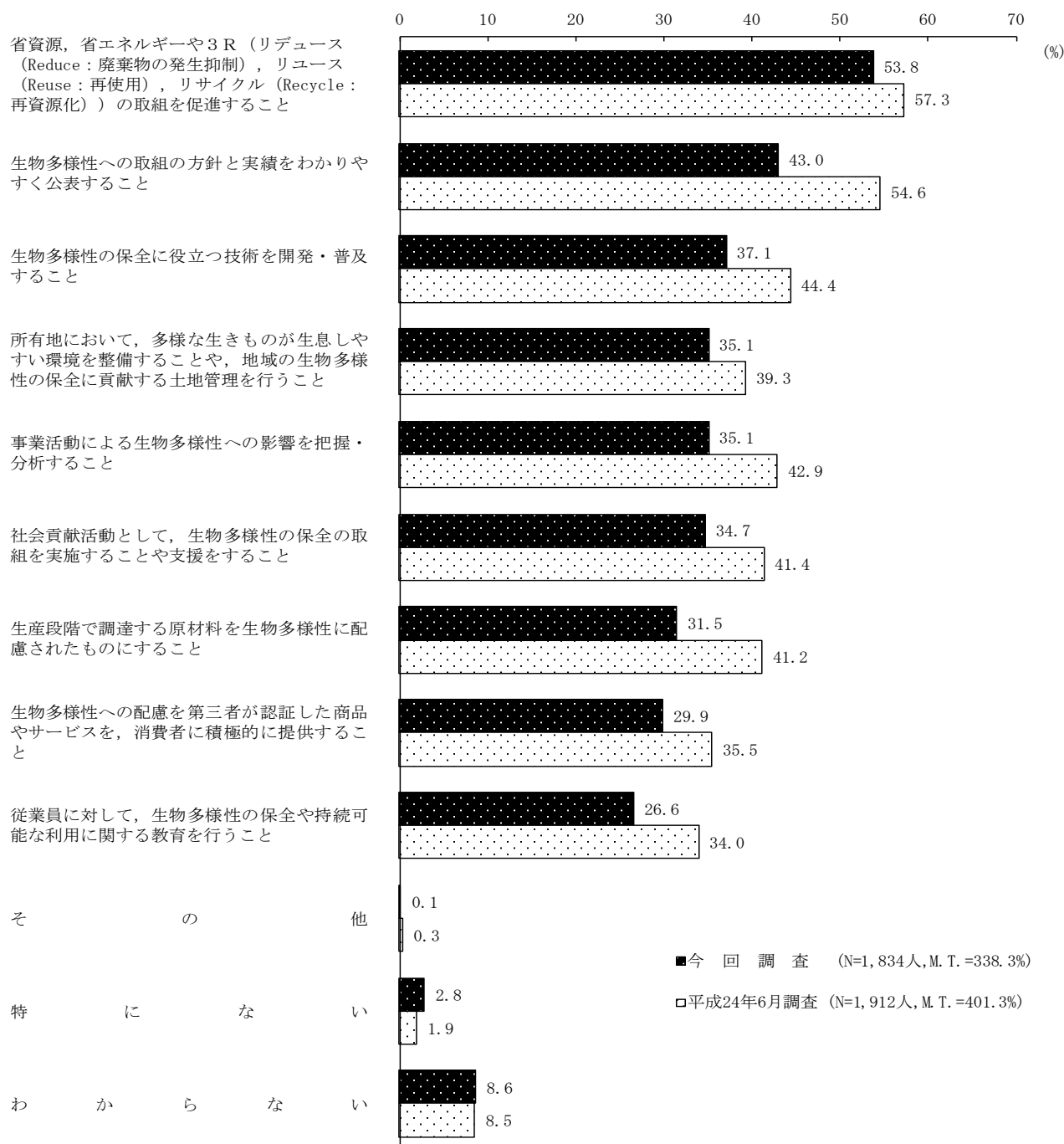
(7) 生物多様性の保全と事業活動との関わり

(複数回答, 上位2項目)

平成24年6月 平成26年7月

- ・省資源, 省エネルギーや3R (リデュース (Reduce: 廃棄物の発生抑制), リユース (Reuse: 再使用), リサイクル (Recycle: 再資源化) の取組を促進すること 57.3% → 53.8% (減)
- ・生物多様性への取組の方針と実績をわかりやすく公表すること 54.6% → 43.0% (減)

(複数回答)



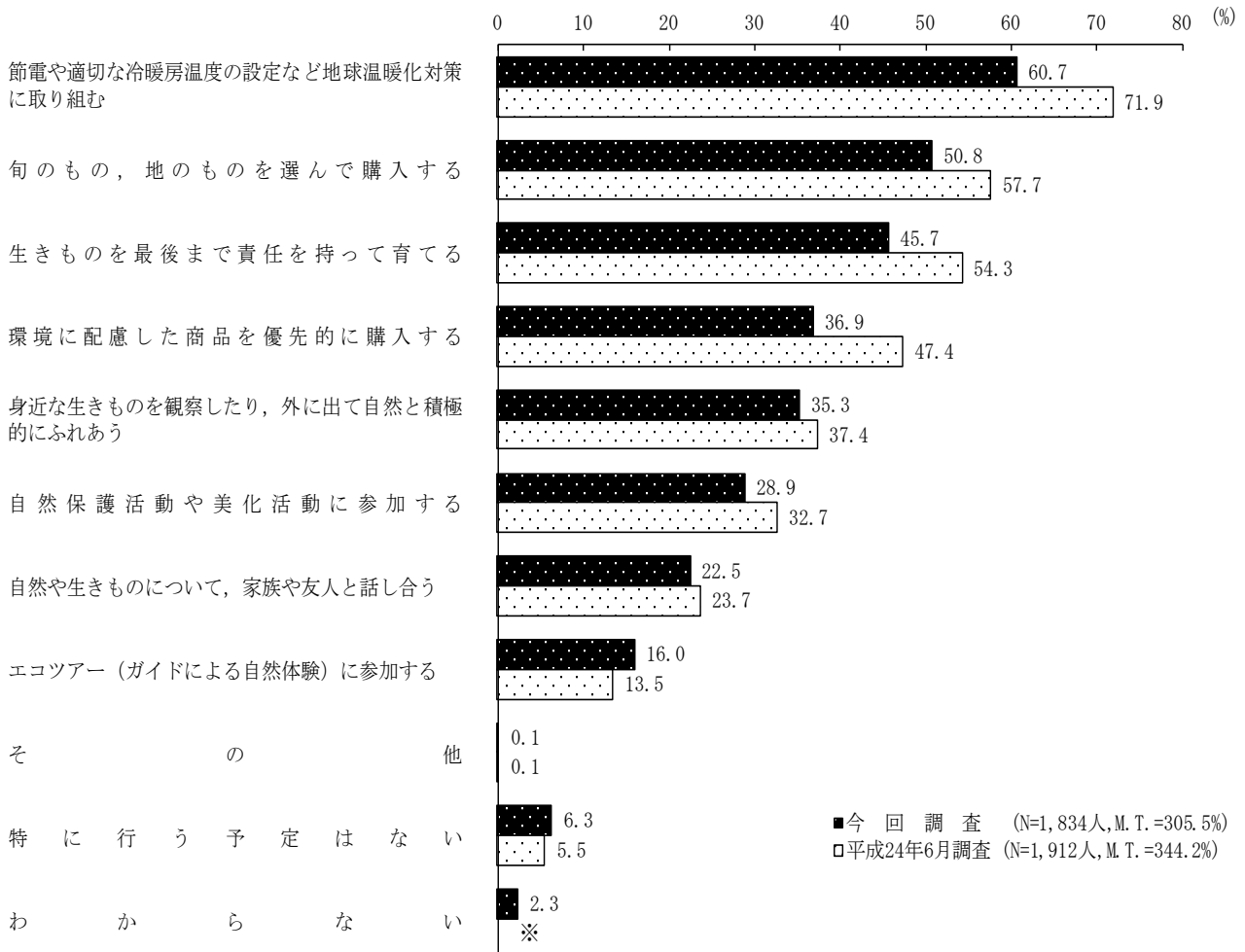
(8) 生物多様性に配慮した生活のための今後の取組

(複数回答, 上位5項目)

平成24年6月 平成26年7月

・節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組む	71.9%	→	60.7% (減)
・旬のもの, 地のものを選んで購入する	57.7%	→	50.8% (減)
・生きものを最後まで責任を持って育てる	54.3%	→	45.7% (減)
・環境に配慮した商品を優先的に購入する	47.4%	→	36.9% (減)
・身近な生きものを観察したり, 外に出て自然と積極的にふれあう	37.4%	→	35.3%

(複数回答)



4 絶滅危惧種

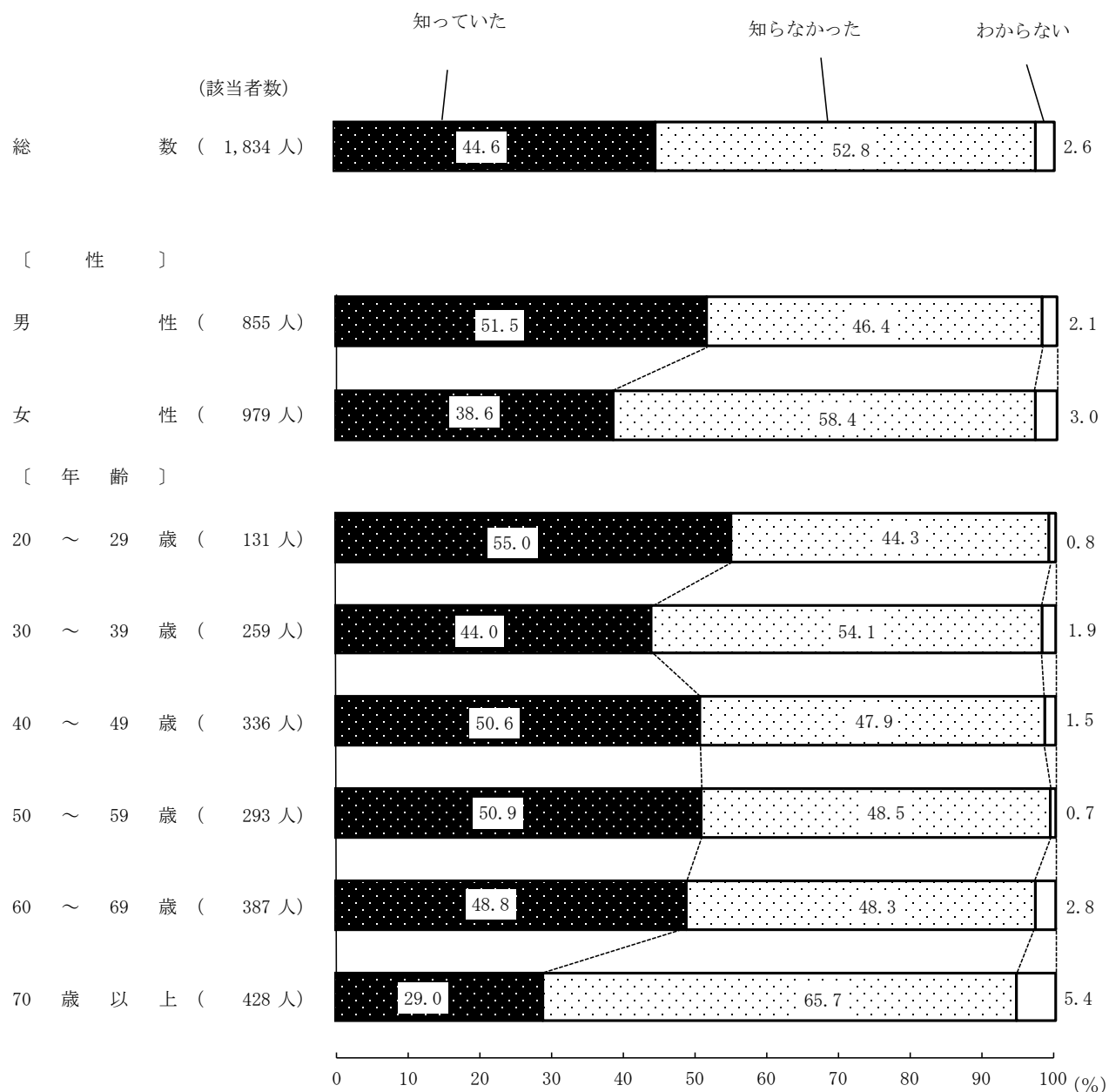
(1) レッドリストの認知度

平成 26 年 7 月

- ・知っていた
- ・知らなかった

44.6%

52.8%

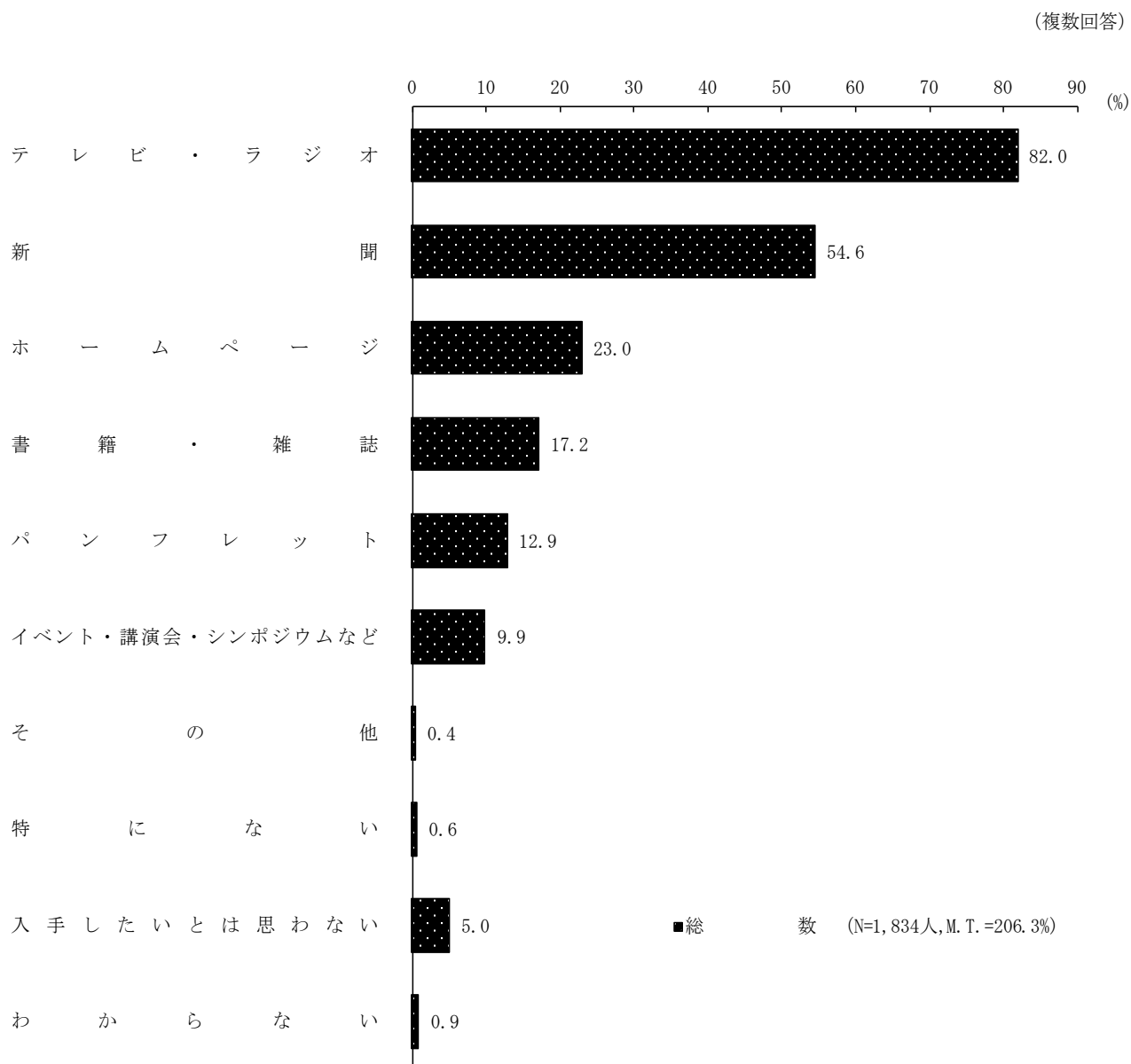


(2) 絶滅危惧種に関して希望する情報源

(複数回答, 上位4項目)

平成26年7月

・テレビ・ラジオ	82.0%
・新聞	54.6%
・ホームページ	23.0%
・書籍・雑誌	17.2%



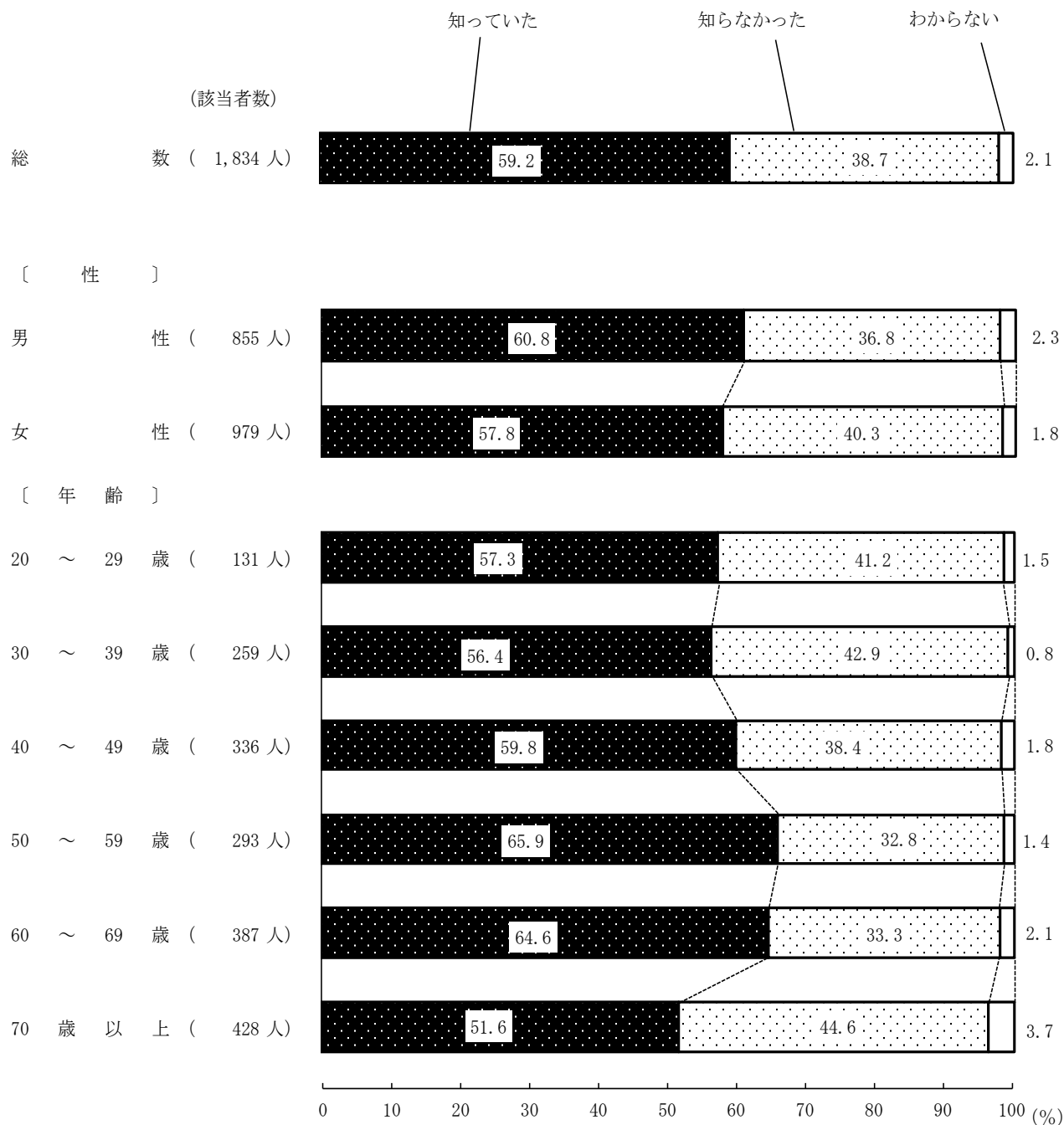
(3) 動物園などにおける絶滅危惧種保全の認知度

平成 26 年 7 月

- ・ 知っていた
- ・ 知らなかった

59.2%

38.7%



(4) 絶滅危惧種保全への協力に関する意識

(複数回答, 上位2項目)

平成26年7月

- ・ 保全活動のための募金や寄付をする (希少動物の生息地買い取りのための募金など) 52.7%
- ・ 保全活動のための普及啓発活動に参加する (希少動物の交通事故防止のためのキャンペーンなど) 21.8%

(複数回答)

